

**第3学年**

## 1. 単元名 「小数」

## 2. 単元の目標

○小数のよさに気づき、進んでこれを用いようとするができる。 (算数への関心・意欲・態度)

○はしたの部分の表し方や整数の計算と関連付けて小数の加減の計算方法を考えることができる。

(数学的な考え方)

○小数を用いてはしたの部分を表現したり、数直線上に小数を表したりすることができる。また、 $\frac{1}{10}$ の位までの小数の加減計算をすることができる。 (数量や図形についての技能)

○小数の意味、表し方、大小関係を理解することができる。 (数量や図形についての知識・理解)

## 3. 単元設定の理由

## (1) 教材について

本単元は、学習指導要領第3学年の内容A「数と計算」(5)に示された、小数の表し方及び $\frac{1}{10}$ の位について知り、 $\frac{1}{10}$ の位までの小数の加法・減法の意味を理解し、それらの計算の仕方を理解することをねらいとしている。また、内容の取り扱い(6)についても、数直線を用いることなどを関連付けて取り扱っていく。

児童はこれまで、長さや体積の測定に関して「9cmと2mm」、「3Lと6dL」などと表すことを学習してきた。本単元では、これらの経験を踏まえて、端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを理解し、これまでの整数の十進位取り記数法の考えを、1より小さい数に拡張して用いることができるようにする。整数の場合は、ある単位の大きさが10集まると次の単位となって表される仕組みであったが、小数の場合は、逆に、ある単位[1]の大きさを10等分して新たな単位[0.1]をつくり、そのいくつ分かで大きさを表している。また、小数の加法・減法についても、整数と同じように計算できることを考えたり計算の仕方を説明したりしながら、数学的な考え方や技能を高めていくというねらいがある。

単元を通して小数の意味や大きさが実感を伴って理解できるようにするために、具体物や図、数直線を用いて表したり、大きさを比較したりするなどの、算数的な活動を大切にする必要がある。本単元での学習は、「 $\frac{1}{1000}$ の位」までを扱う第4学年の「小数」の学習へつながるものである。そのため、小数の仕組みを理解した上で小数点をそろえて位ごとに計算できるようにしておくことも大切である。

## (2)

[個人情報保護のため、省略]

### (3) 指導にあたって

#### ①単元の導入と学習の動機づけ（学習テーマ）

小数が必要となるのは測定と関連している場合が多いので、単元の導入では、ポットに入っている水のかさを1Lますで測ったときの、はしたの部分の表し方を考えさせる。1Lに満たないはしたの大きさを視覚的にとらえさせるために実物で見せ、より実感をもって考えられるようにしたい。1Lますには、10等分した目盛り(1dL)がある。これを手掛かりに「10等分したいくつつ分」ではしたが表せることに気づかせ、「 $\frac{1}{10}$ 」から新たな「0.1」という単位を指導したい。

単元を通した学習テーマとして「小数のよさを見つけよう」を設定する。小数を知ることは数の概念を大きく広げることになるが、実態からみると、その表し方や量としてとらえることに抵抗があると思われる。しかし、実生活では小数を使う機会が多い。小数の便利さに気づかせたり、身近なものとして意識させたりすることで、学習意欲をもたせたい。

#### ②図や数直線を用いること

図や数直線を用いて小数を表すことで、量としてとらえさせたい。純小数を数字だけで見るより、数直線上に表すことで、0ではなく1と0の間にあることが理解しやすい。0.1の10個分で1になり、その続きの10個分で2になるという、整数と同じ十進位取り記数法の考えにつなげることもできる。また、小数の大小比較や加法・減法の計算の仕方を、考えたり説明したりするのにも数直線が有効であると考えている。さらに、小数の0.1と分数の $\frac{1}{10}$ などを同一の数直線の上下に表し、同じ大きさであることを、視覚的にも実感できるようにしたい。

#### ③はしたの量と全体量を小数で表すことを、段階的に扱うこと

単元の導入では、1Lに満たないはしたの量だけを小数で表すことを指導する。この時に、「小数点」「 $\frac{1}{10}$ の位」「整数」などの用語も初めて扱う。児童の実態から考え、全体量を小数で表すことについては、2時間目に扱う。そして、 $0.1L = 1dL$ だから $1L2dL = 1.2L$ のように、小数を使って単名数表記することも併せて指導し、3時間目の学習につなげたい。

#### ④本時の学習とガイド学習の手立て

本時は、前時の学習をもとに、小数を使った長さの単名数表記の仕方を考えさせる。これまで、長さを「○cm○mm」のように表してきた児童にとって、cm単位だけで表すことには発想の転換が必要であると考えているので、学習課題の把握と解決の見通しをもたせる場面で直接指導をする。この時に、 $1mm = 0.1cm$ であることに気づかせれば、自力解決で「 $5cm4mm = 5.4cm$ 」と表すことへの見通しをもたせることができると考える。具体的には、まず、実物のテープとものさしを用意して実物投影機で提示する。児童には、ものさしのように1cmを10等分している目盛りがついた数直線カードを渡し、 $5cm4mm$ のところ印をつけさせる。次に、はしたである4mmの部分拡大し、1mmの目盛りは1cmを10等分していることから、 $\frac{1}{10}$ であり0.1でもあると考えられ、 $1mm = 0.1cm$ と表せることを指導する。

その後の自力解決からは、同時間接指導とし、一人一人の様子を見ながら個別指導していく。集団解決では、学習リーダーを中心に、個々の考えを共有させ、よいところや納得できる場所を確かめたり、分かりにくいところは質問して理解を深めたりしていく。必要に応じて学習リーダーに助言したり、評価したりしながら、自分たちで学習を進められるようにしたい。学習のまとめをする時も、学習リーダーを中心に、できるだけ自分たちの言葉でまとめさせたい。授業の終末では、生活の中で使われる小数には単名数表記が多いことから、小数のよさや便利さにふれ、学習意欲を持続させていきたい。

## 第4学年

### 1. 単元名 「分数」

#### 2. 単元の目標

- 1より大きい分数について、分数で表したり計算したりすることに関心をもち、進んで学習しようとすることができる。  
(算数への関心・意欲・態度)
- 単位分数の何個分の考え方を拡張して、1より大きい分数を考え、仮分数や帯分数での表し方を考えることができる。また、それらの分数の大小や加減の計算方法を考えることができる。  
(数学的な考え方)
- 1をこえる分数を仮分数や帯分数に表すことができ、それらの分数の大小比較や加減の計算をすることができる。  
(数量や図形についての技能)
- 仮分数や帯分数の表し方や相等関係を知り、それらの分数の加減の計算方法を理解することができる。また、大きさの等しい分数があることを理解することができる。  
(数量や図形についての知識・理解)

#### 3. 単元設定の理由

##### (1) 教材について

本単元は、学習指導要領第4学年の内容A「数と計算」(6)に示された、分数の意味や表し方について理解を深めるとともに、同分母の分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができるようにすることをねらいとしている。

本単元では、1より大きい分数を仮分数や帯分数を用いて表したり、分数の大きさを、数直線を用いて表したり、分数の相等や大小関係をみたりすることを通して、分数も既習の整数や小数と同じ「数」としてとらえ、大小を比較したり加法や減法の計算をしたりすることを学習する。

本単元で主に扱う1より大きい分数については、第3学年でも簡単に触れているが、本単元で本格的に扱い、仮分数や帯分数を導入する。この時、単位分数のいくつ分という見方ができるようにすることが大切である。また、等しい分数については、十進位取り記数法にもとづいている整数や小数とは異なり、同じ大きさの分数が何通りも存在する。これは分数の特徴的な性質である。第5学年で、約分、通分の用語とともに再度学習するので、本単元では、分数の特徴をつかませることに重点をおいて指導し、数字だけの操作による形式的な扱いにならないように配慮したり、数直線を用いて実感的に理解させたりしていくことが大切である。

##### (2)

[個人情報保護のため、省略]

### (3) 指導にあたって

#### ①単元の導入と学習の動機づけ（学習テーマ）

本単元の導入では、3年生での分数の導入と同じように、両手を広げた長さを単位分数（ $\frac{1}{2}m$ 、 $\frac{1}{3}m$ 、 $\frac{1}{4}m$ ）のいくつ分になるかを調べさせる。分母の数より、分子となるいくつ分の方が大きい数になる場合があることに気づかせ、1より大きい分数があることを知らせる。この時、実物を使って操作することや簡単なテープ図に表し、どこまでを1とするかを確かめておくことで、実感をもたせながら新たな仮分数の定義につなげる。そして、「単位分数のいくつ分」という考え方は、これから学習していく「仮分数と帯分数の変換」や「仮分数や帯分数の加減の計算の仕方」などの考え方の基本になるので、しっかり定着させておきたい。

単元を通した学習テーマとして「分数をもっと広げよう」を設定する。分数のもつ汎用性やよさに気づかせることは難しいが、より難易度のある学習をしていくことに対する抵抗を少なめたり、新たな知識や理解を身につけていくイメージをもたせたりすることで、継続的に学習意欲をもたせたい。

#### ②学習のあしあと

1単位時間ごとに学習した内容は短くまとめて、学習リーダーが単元学習の計画表に書き込んでいる。それだけでなく、繰り返し使わせたい言葉や表現はキーワードとして掲示し、以後の学習の中で、自力解決や集団解決の際のヒントにさせたい。こちらから与えるだけでなく、児童が自ら使えるものを見つけたり、選んだりすることを期待している。

#### ③図や数直線を用いること

仮分数と帯分数の変換や計算については、分子の数字だけをみて形式的に操作するのではなく、図や数直線を用いて表す操作を繰り返すことで、具体的な量としてとらえたり単位分数のいくつ分かで考えたりすることを定着させたい。また、分母や分子がちがっても大きさが等しい分数があることを、実感をもって理解させるためにも、数直線を用いて表すことが有効であると考ええる。

#### ④本時の学習とガイド学習の手立て

本時は、帯分数の入った加法の計算の仕方を考えさせる。正しい答えを導くだけではなく、前時までに学習してきたことを使いながら、どのように計算すればよいかを考えたり、自分の考えを説明したりさせたい。また、その計算方法が、2通り考えられることにも気づかせたい。そのためには、課題解決の見通しをもたせる場面と集団解決の場面がポイントとなる。3年生の直接指導の場面と重なることも考えられるが、見通しをもつ場面で直接指導できるように、渡っておきたい。同様に、集団解決終盤の2通りの計算の仕方をまとめる場面でも、直接指導の時間がもてるようにしたい。

見通しをもたせる場面では、前時までに学習してきた内容の中の、何を使うとよいかを考えさせる。具体的には、「帯分数を仮分数に直す」「帯分数＝整数＋真分数」である。児童から出なければヒントを与え気づかせておくことで、自力解決や集団解決の場面で2通りの計算方法を考えたりまとめたりすることにつなげたい。

その他の場面では学習リーダーによるガイド学習が多くなるので、学習の流れについて、事前に学習リーダーと確認しておく。同時間接指導では、3年生と同じように一人一人の様子を見ながら個別指導したり話し合いの様子を見守りつつ、必要に応じて学習リーダーに助言したり評価したりして、児童の主体的な学習を支えていきたい。

4. 指導と評価の計画（第3学年）

全9時間（本時 3時間目）				
小単元	時	目標	主な学習活動	おもな評価規準と評価方法
1 はしたの大きさ と小数	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>はしたのかさの表し方を調べることから、小数についてのめあてをもつ。</li> <li>はしたのかさを、小数で表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入れ物に入っている水のかさについて、はしたのかさを分数とは別の表し方があることを知る。</li> <li>小数、小数点、<math>\frac{1}{10}</math>の位、整数の用語とその意味を知り、はしたのかさを小数で表す。</li> </ul>	関 はしたのかさを表すために小数を活用しようとしている。（観察・発言）
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>はしたのかさの表し方をもとに、全体量を小数で表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入れ物に入っている水のかさについて、0.1Lは1dLと同じであることを確かめる。</li> <li>複名数表示のかさを、小数を使ってL単位だけで表すことを考えたり説明したりする。</li> </ul>	知 小数で表されたかさの意味を理解している。（観察・発言・ノート）
	3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>テープの長さを、数直線を用いて表したり説明したりして、小数の意味や大きさを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テープの長さをcm単位にして表すために、1mmをcm単位で表す方法を考える。</li> <li>数直線を用いてテープの長さを表したり、小数で表すことを説明したりする。</li> </ul>	知 小数を使ってcm単位だけでテープの長さを表すことができることを理解している。（発言・ノート）
2 小数の大きさ	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>小数の仕組みを理解し、大小を比較することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小数について、1をいくつと0.1をいくつ、または、0.1のいくつ分かを線分図や数直線上に表して考える。</li> <li>いろいろな小数の大小比較を、不等号を使って式に表す。</li> </ul>	知 小数を線分図や数直線上に表し、大小を比較できることを理解している。（発言・ノート）
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>分数と小数を、数直線や単位をそろえていくつ分かで大小比較することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「0.2」と「<math>\frac{4}{10}</math>」の大きさの比べ方を考える。</li> <li>数直線上に表したり単位のいくつ分かを考えたりして、大小比較する。</li> </ul>	技 小数と分数の大小比較ができる。（発言・ノート）
3 小数のたし算 ひき算	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>小数の加減計算の仕方を考えたり、計算したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>0.6+0.2や0.6-0.2の計算の仕方を考える。</li> <li>計算の仕方を図や式で説明したり、計算したりする。</li> </ul>	考 0.1の何個分ととらえて、計算する方法を考えたり説明したりしている。（観察・発言・ノート）
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>小数のたし算の筆算が整数の筆算と同じようにできることを理解し、計算することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整数の場合と同じように考えて、筆算の仕方を考える。</li> <li>位をそろえたり小数点の位置に気をつけたりしながら、計算する。</li> </ul>	技 0.1の何個分かを理解して、小数のたし算の筆算の仕方が分かる。（観察・ノート）
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>小数のひき算の筆算もたし算と同じように筆算でできることを考えたり説明したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たし算の筆算や整数の筆算をもとに、小数のひき算の筆算の仕方を考える。</li> <li>正しい筆算の仕方を説明したり計算したりする。</li> </ul>	考 小数のひき算の筆算の仕方を考えたり計算の仕方を説明したりしている。（発言・観察ノート）
4 たしかめ	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の理解と定着を評価し、さらに習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習問題や発展問題を解く。</li> <li>単元末テストをする。</li> </ul>	関 小数の問題に進んで取り組もうとする。（ノート・観察） 技 知 いろいろな問題を解き、正しい答えを求めたり小数についての理解を深めたりしている。（テスト・観察）

4. 指導と評価の計画（第4学年）

全9時間（本時 6時間目）				
小単元	時	目標	主な学習活動	おもな評価規準と評価方法
① 1より大きい分数の表し方	1	・単位とする大きさの分数で表すことを通して、1より大きい分数について関心をもち、調べようとする。	・両手を広げた長さについて、m単位で表すために単位分数のいくつ分になるかを考える。 ・1よりも大きい分数があることを知る。	<b>関</b> 1より大きい分数があることを知り、関心をもち、調べようとしている。（観察・発言）
	2	・真分数、仮分数を知り、その意味を理解する。	・いろいろな分数を、1を基準に大きい・等しい・小さいで仲間わけをする。 ・数直線上に表しそれぞれの大きさ確かめる。 ・真分数、仮分数について知る。	<b>知</b> 真分数、仮分数の意味を理解している。（発言・ノート）
	3	・帯分数の意味と表し方を知り、仮分数を整数や帯分数に直す仕方を考える。	・例示された仮分数について、数直線上に表し大きさを確かめる。 ・帯分数の意味や表し方を知る。 ・仮分数を帯分数に直す計算の仕方を考える。	<b>知</b> 帯分数の意味を理解している。（発言・ノート） <b>技</b> 仮分数を整数や帯分数に直して表記できる。（発言・ノート）
	4	・帯分数が単位分数の何個分かを考え、帯分数を仮分数に直す仕方を考える。	・例示された帯分数について、数直線上に表し、単位分数のいくつ分かをみつけて仮分数にする。 ・帯分数を仮分数に直す計算の仕方を考える。	<b>技</b> 帯分数を仮分数に直して正しく表記できる。（発言・ノート）
② 分数のたし算とひき算	5	・同分母分数の加法や減法の計算の仕方を考え、説明したり計算したりする。	・同分母分数の加法や減法の問題場面を把握して立式し、計算の仕方を考える。 ・テープ図や数直線を使って計算の仕方を説明したり答えを導いたりする。	<b>技</b> 同分母分数の加法や減法の計算が正しくできる。（発言・ノート）
	6 (本時)	・帯分数の入った加法の計算の仕方を考えたり、説明したりする。	・帯分数の加法の問題場面を把握して立式し、既習内容をもとに2通りの計算方法を考える。 ・テープ図や数直線などを使って計算の仕方を説明する。	<b>考</b> 帯分数の入った計算について、帯分数を仮分数に直す方法と整数と真分数の和で表す方法で計算の仕方を考えたり説明したりしている。（観察・発言・ノート）
	7	・帯分数の入った減法の仕方を考え、説明したり計算したりする。	・帯分数の減法の問題場面を把握して立式し、既習内容をもとに2通りの計算方法を考える。 ・テープ図や数直線などを使って計算の仕方を説明する。	<b>考</b> 帯分数の入った計算について、帯分数を仮分数に直す方法と整数と真分数の和で表す方法で計算の仕方を考えたり説明したりしている。（観察・発言・ノート）
	8	・分母や分子がちがっても大きさの等しい分数があることを理解する。	・1までの大きさの分数について、分母がちがう分数をそれぞれ数直線に表す。 ・数直線を縦方向に見て、同じ大きさの分数を見つける。	<b>知</b> 分母や分子がちがう分数でも大きさの等しい分数があることを理解している。（発言・観察・ノート）
③ たしかめ	9	・学習内容の理解と定着を評価し、さらに習熟を図る。	・練習問題や発展問題を解く。 ・単元末テストをする。	<b>関</b> 分数の問題に進んで取り組もうとする。（ノート・観察） <b>技</b> <b>知</b> いろいろな問題を解き、正しい答えを求め、分数についての理解を深めている。（テスト・観察）

5. 本時の学習

(1) 本時の目標 ◎3年 テープの長さを数直線を用いて表したり説明したりして、小数の意味や大きさを理解することができる。(数量や図形についての知識・理解)

◎4年 帯分数の入った加法の計算の仕方を考えたり、説明したりすることができる。(数学的な考え方)

(2) 展開

支援と評価 (☆)	学習活動と予想される児童の反応	形態	学習活動と予想される児童の反応	支援と評価 (☆)
<p>・かさの場合に、はしたの部分だけでなく全体量を帯小数で表したことを想起させる。</p> <p>・本時の課題は、長さであることから、学習のめあてにつなげる。</p> <p>・めあてと同時に、「小数を使って長さを表すと……」のようにまとめることを伝えておく。</p> <p>・実際のテープとものさしを拡大提示し、実感をもたせる。 (実物投影)</p> <p>・1 cmを10等分した1目盛りが1 mmであり0.1 cmと表せることを確かめさせる。</p> <p>・同時間接指導で一人一人の自力解決の様子を見ながら、気になる児童には個別指導する。</p> <p>・集団解決の場面は、学習リーダーを中心に話し合わせ、互いの考えを共有させる。</p> <p><b>☆小数を使ってcm単位だけでテープの長さを表すことができることを理解している。(発言・ノート)</b></p> <p>・小数を使って表すことで、単名数表示ができてより簡単に表せるよさにもふれる。</p> <p>・学習リーダーを中心に自分たちの言葉でまとめられるよう、様子をみながら助言する。</p> <p>・学習内容の理解の定着を図る。</p> <p>・小数を使った単名数表示から複名数表示にすることもできるようにする。</p> <p>・単元を通じた学習のめあてに照らし、小数を使うことのよさにふれて書かせる。</p>	<p>1. 前時の学習をふり返る。 1 dL=0.1Lだから 1 L 2 dL を、小数を使って表すと 1.2 L になる。</p> <p>2. 本時の課題を知る。 長さが 5 cm 4 mm のテープがあります。 この長さは何cm といえましょう。</p> <p>3. 学習のめあてを確認する。 小数を使って、長さを表すことを考えよう。</p> <p>4. 見通しをもつ。 ○数直線に表してみよう。 ・5 cm 4 mm は 5 cm と 4 mm だから、4 mm がはしたになる。 <math>\frac{1}{10}</math> ・1 mm は 1 cm の <math>\frac{1}{10}</math> だから 0.1 cm といえる。</p> <p>5. 自分で考える。 ・4 mm は 0.4 cm だから、5 cm と 0.4 cm で、5.4 cm かな。</p> <p>6. みんなで考える。 ・4 mm は、1 mm の 4 つ分です。1 mm は 0.1 cm なのでその 4 つ分は 0.4 cm です。だから 5 cm 4 mm は 5.4 cm です。 ・1 cm を 10 等分した 1 つ分は 0.1 cm で 1 mm と同じだから、4 mm は 0.4 cm です。5 cm と合わせると 5.4 cm です。</p> <p>7. 学習したことをまとめる。 小数を使って長さを表すと、一つの単位で表せる。</p> <p>8. 適用題を解く。 ・9 mm = <input type="text"/> cm ・4 cm 3 mm = <input type="text"/> cm ・<input type="text"/> cm = <input type="text"/> cm <input type="text"/> mm (自分で問題を作って解く)</p> <p>9. ふり返りをノートに書く。</p>		<p>1. 本時の課題を知る。 <math>1\frac{2}{5}</math> と <math>\frac{4}{5}</math> のテープがあります。 ○前の学習の問題とちがうところは何でしょう。 ・帯分数を使うところ</p> <p>2. 学習のめあてを確認する。 帯分数が入っている計算の仕方を考えよう。</p> <p>3. 見通しをもつ。 ○今までに学習したことで、何を使うとよいか。 ・帯分数を仮分数に直すこと。 ・仮分数の計算ならできる。 ・帯分数は「整数+真分数」と表せる。 ・テープ図や数直線を使って考える。</p> <p>4. 自分で考える。 ・仮分数に変えたら、計算できそう。 ・整数+真分数にしたら、整数はそのままいいのかな。</p> <p>5. みんなで考える。 ①仮分数に直して計算する。 <math>\frac{2}{5} + \frac{4}{5} = \frac{7}{5} + \frac{4}{5} = \frac{11}{5}</math> ②帯分数を整数+真分数と表して計算する。 <math>\frac{2}{5} + \frac{4}{5} = 1 + \frac{2}{5} + \frac{4}{5} = 1 + \frac{6}{5} = 1 + 1 + \frac{1}{5} = 2\frac{1}{5}</math></p> <p>6. 学習したことをまとめる。 帯分数が入っている計算の仕方は、仮分数に直したり、整数+真分数にしたりして計算する。</p> <p>7. 振り返りをノートに書く。</p>	<p>・前時の課題が真分数と仮分数の計算だったことに関連させて、帯分数の計算になることに気づかせ、学習のめあてにつなげる。</p> <p>・答を求めることだけではなく、計算の仕方を考えることがめあてであること意識させるために、終末で「帯分数が入っている計算の仕方は……。」のようにまとめることを伝えておく。</p> <p>・前時までに学んできたことが見えるように、学習のあしあとを掲示しておく。</p> <p>・2通りの計算方法のもとになる既習内容として、「帯分数を仮分数に直す」「帯分数を整数+真分数と表す」があることを、児童が気づかない場合は提示する。</p> <p>・同時間接指導で一人一人の自力解決の様子を見ながら、気になる児童には個別指導する。</p> <p>・自力解決で2通りの計算方法が考えられなくても、集団解決の中で気づけばよいことも、助言しておく。</p> <p>・集団解決の場面は、学習リーダーを中心に話し合わせ、互いの考えを共有させる。 <b>☆帯分数を仮分数に直したり整数と真分数の和で表したりして、帯分数の入った加法の計算の仕方を考えたり説明したりしている。(発言・ノート)</b></p> <p>・計算方法のまとめ方については、児童の話し合いを認めつつ、2通りの計算方法にまとめられるよう、直接指導する。</p> <p>・学習リーダーを中心に自分たちの言葉でまとめられるよう、様子をみながら助言する。</p> <p>・単元を通じた学習のめあてに照らし、分数についての理解の広がりにつれて書かせる。</p>

6. 研究の視点 ①学習リーダーとフォロワーそれぞれの役割を意識した、効果的なガイド学習が行われていたか。

②それぞれの学年で、直接指導と間接指導の場面が適切であったか。